



今日のトピック リビジョン・インデックスでみる米国EPSの底堅さ 今後は利益の成長に加え、使い道にも注目

ポイント1 米国株式は徐々に値を戻す 長期金利の低下、好調な業績が支え

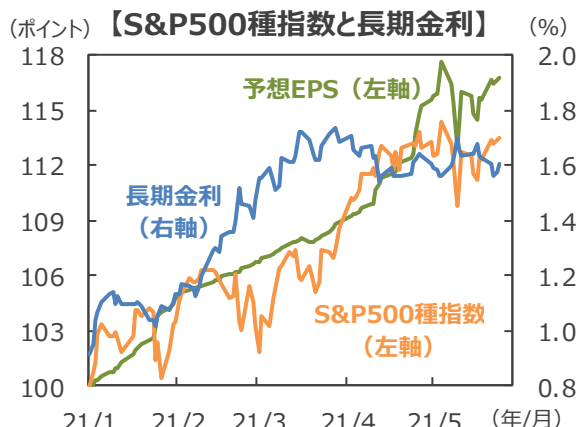
- 米国株式市場は、5月中旬に一旦調整しましたが、その後は徐々に値を戻す展開です。インフレ期待が落ち着き、長期金利が低下気味に推移していることや経済指標が堅調に推移する中、業績の上振れ傾向が続いていることが背景です。

ポイント2 リビジョンでみるEPSの堅調さ 2010年以降で2度目の50ポイント越え

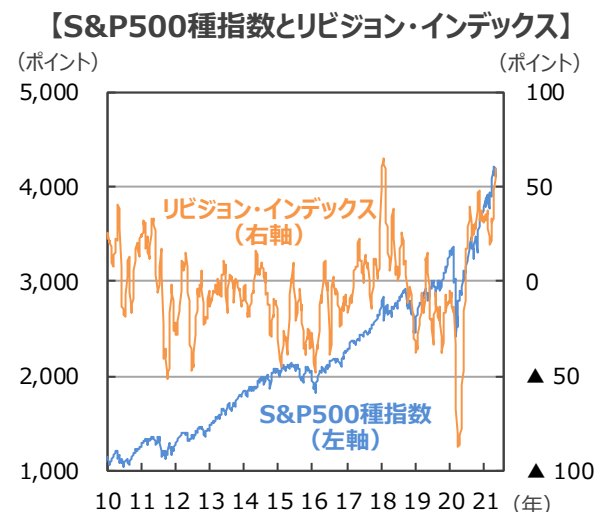
- 12カ月先予想利益（EPS）は堅調な推移が続いています。業績予想の上振れ・下振れ度合いをみるリビジョン・インデックスは5月13日に50.4、20日に55.3と、2010年以降で2018年1-2月に続いて2度目の50超の局面に入っており、その勢いは顕著です。
- 米国では、新型コロナの新規感染者数が安定して減少しており、ワクチンの効果が発現している可能性が高まっています。新規感染者数の減少は生産活動や対面型サービス業には追い風であり、消費は引き続き堅調に推移する見通しです。当面は、業績の回復モメンタムが株価を支えられと考えられます。

今後の展開 利益の成長に加え、使い道にも注目

- なお、業績リビジョンの改善は、夏以降に一服すると思われる。短期的に景気の改善度合いがピークをつけると見られるほか、経済の正常化を受けて、原材料価格や輸送費といったコストの上昇が次第に利幅を抑制する可能性が想定されるためです。業績に対する期待は利益の成長に加え、利益の使い道へと広がりを持ち始めると考えられます。将来の成長を見据えたデジタル投資、自社株買いや増配による株主還元などに対する期待が高まると考えられます。
- 合わせて、物価上昇と長期金利にも留意する必要があります。投入コストの上昇が価格に転嫁されれば、物価の上昇に結び付きやすく、長期金利の上昇が株価を抑える場面も想定されるためです。こうした点からも、今後は利益の使い道が注目されます。



(注) データは2021年1月4日～2021年5月27日。S&P500種指数、同予想EPSは2021年1月4日 = 100。長期金利は米10年国債利回り、予想EPSは12カ月先予想、FactSet集計。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



(注) データは2010年1月7日～2021年5月27日。リビジョン・インデックスは21年5月20日まで。週次、4週移動平均。
リビジョン・インデックス：当期利益のコンセンサス予想をベースに、 $(\text{上方修正件数} - \text{下方修正件数}) \div (\text{上方修正件数} + \text{下方修正件数})$ で計算。当期利益はI/B/E/S予想。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2021年5月25日 2021年6月の注目イベント
2021年5月21日 米1-3月期一株当たり利益は大幅上方修正

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。